

スポーツを切り口とした都心部の活性化に 横浜スタジアム・横浜DeNAベイスターズ・ DeNA が果たす役割

- 横浜スタジアムのこれまでの取り組み
- 関内・関外エリアのさらなる発展に向けて

株式会社横浜スタジアム

藤井謙宗（1966年4月生まれ、富山県高岡市出身）

1989年～2006年

**総合電機メーカー、外資系シリコンウェハーメーカー、特殊
土木用資材メーカーで、経理・財務・総務・資材・営業管
理等に従事**

2006年7月

株式会社ディー・エヌ・エーに入社

総務、投資家向け広報（IR）業務等を担当

2015年4月 横浜スタジアム入社

増席・改修工事の完了

2017年11月から2020年2月にかけて増席・改修工事を実施



新設レフトウイング(約2,500席)



この10年での横浜スタジアム コミュニティボールパーク化構想 進化のあゆみ

**行政・地元の皆様
ベ이스ターズファンの皆様
ご支援・ご声援の後押しを受け
にぎわいづくりが進みました**

重ね重ねありがとうございます

カラーの統一(スタジアム外周)

2012年



カラーの統一（スタジアム内座席）

2012年～2020年



ハマスタBAYビアガーデン

2012年～



ハマスタBAYビアガーデン



ハマスタBAYビアガーデン



2015年～



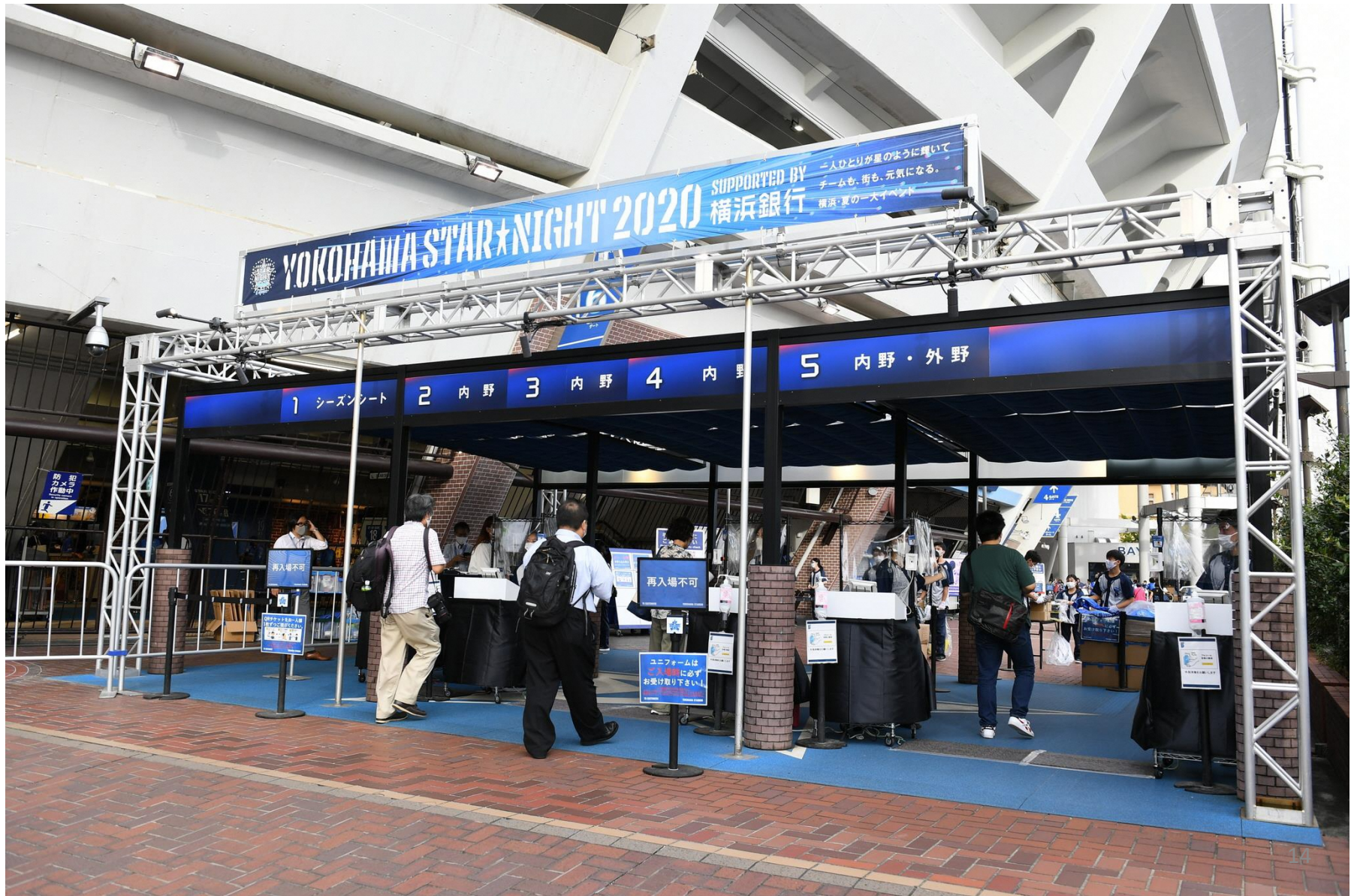
グラウンドでの早朝キャッチボール

グラブ・ボールは貸し出し、手ぶらで参加



人工台地の試合日場内化(通称:Yデッキ)

2017年～



人工台地の試合日場内化(通称:Yデッキ)

来場者の回遊性・快適度が大きく向上



Yデッキでの縁日イベント開催



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し

2018年・2019年



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し

日本大通りも会場にした「ハマスタ祭り」を開催



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し



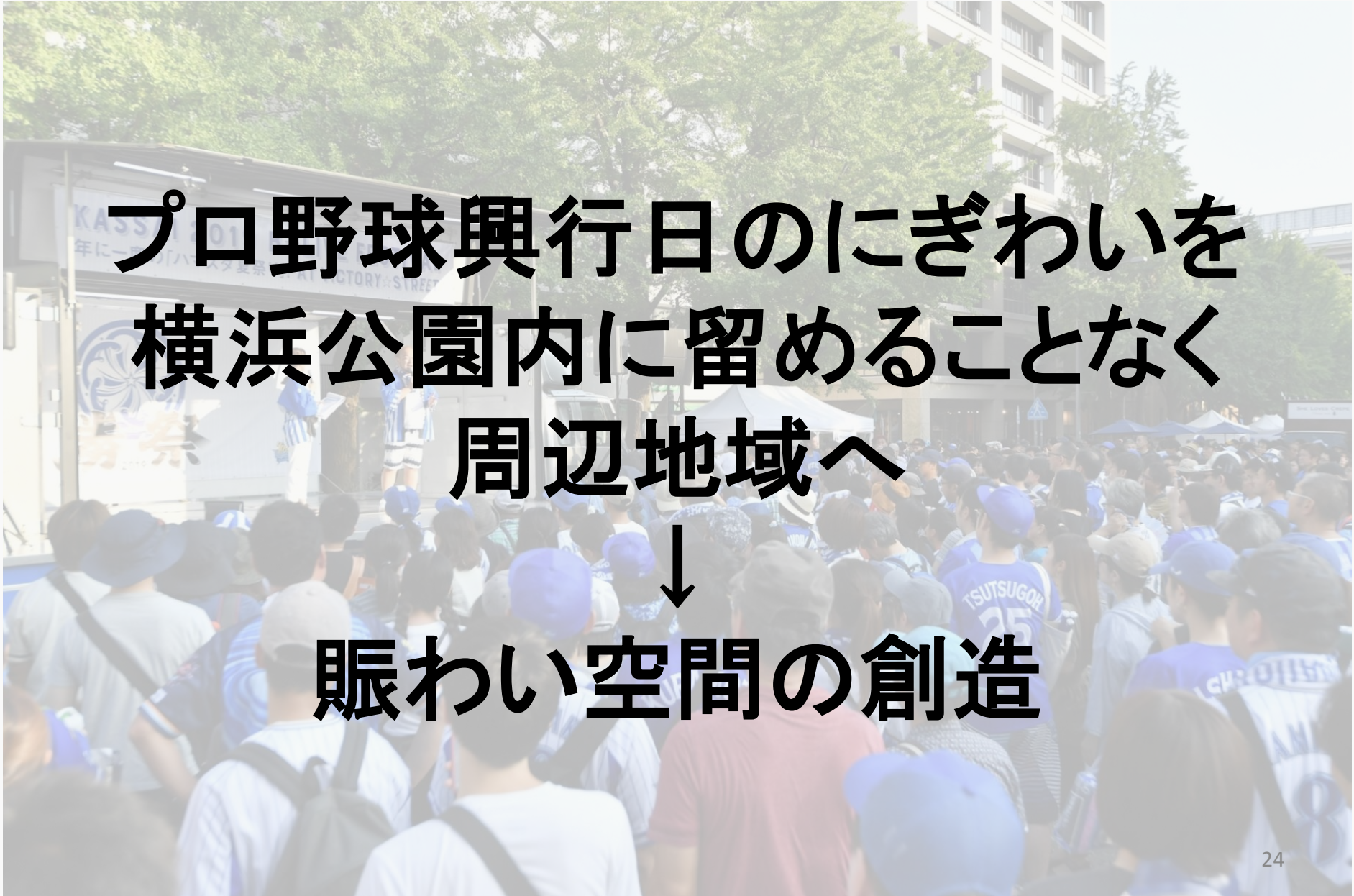
横浜公園外へのにぎわいの浸み出し

2019年は港郵便局前交差点を越え、日本大通り全体に範囲を拡大



横浜公園外へのにぎわいの浸み出し





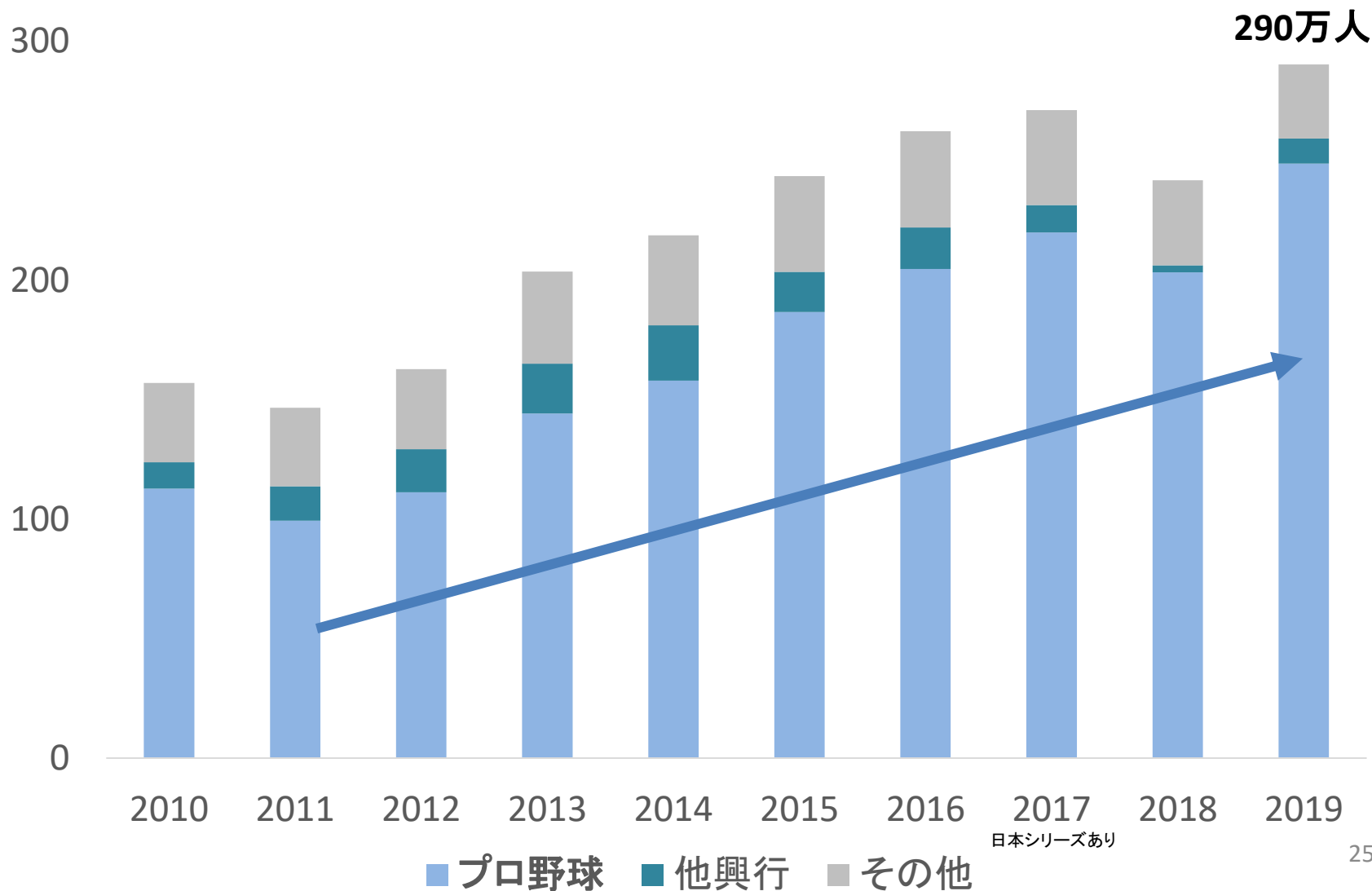
プロ野球興行日のにぎわいを
横浜公園内に留めることなく
周辺地域へ



賑わい空間の創造

横浜スタジアム 年間来場者数の推移(万人)

2011年比でほぼ倍増、年間300万人近い来場者
20代、30代などの世代がプロ野球興行により足を運ぶように





スポーツを通じて
「ひと」と「まち」を元気にする



地域に貢献しつづけていきたい

横浜公園・横浜スタジアムの いま

BAY DISCOVERY DECK



横浜のランドマークを一望



球場外周をぐるっと回れるデッキ(1周約600m)



回遊デッキからグラウンド内を一望



20年9月末にハンバーガーショップがオープン

非試合日の売上は
プロ野球興行日の16%



BLUE FRIDAY～FRIDAY OVATION PROJECT～(金曜日のみ点灯許可)



プロ野球興行日の夜(平日19時過ぎ)



プロ野球興行日の夜(平日19時過ぎ)



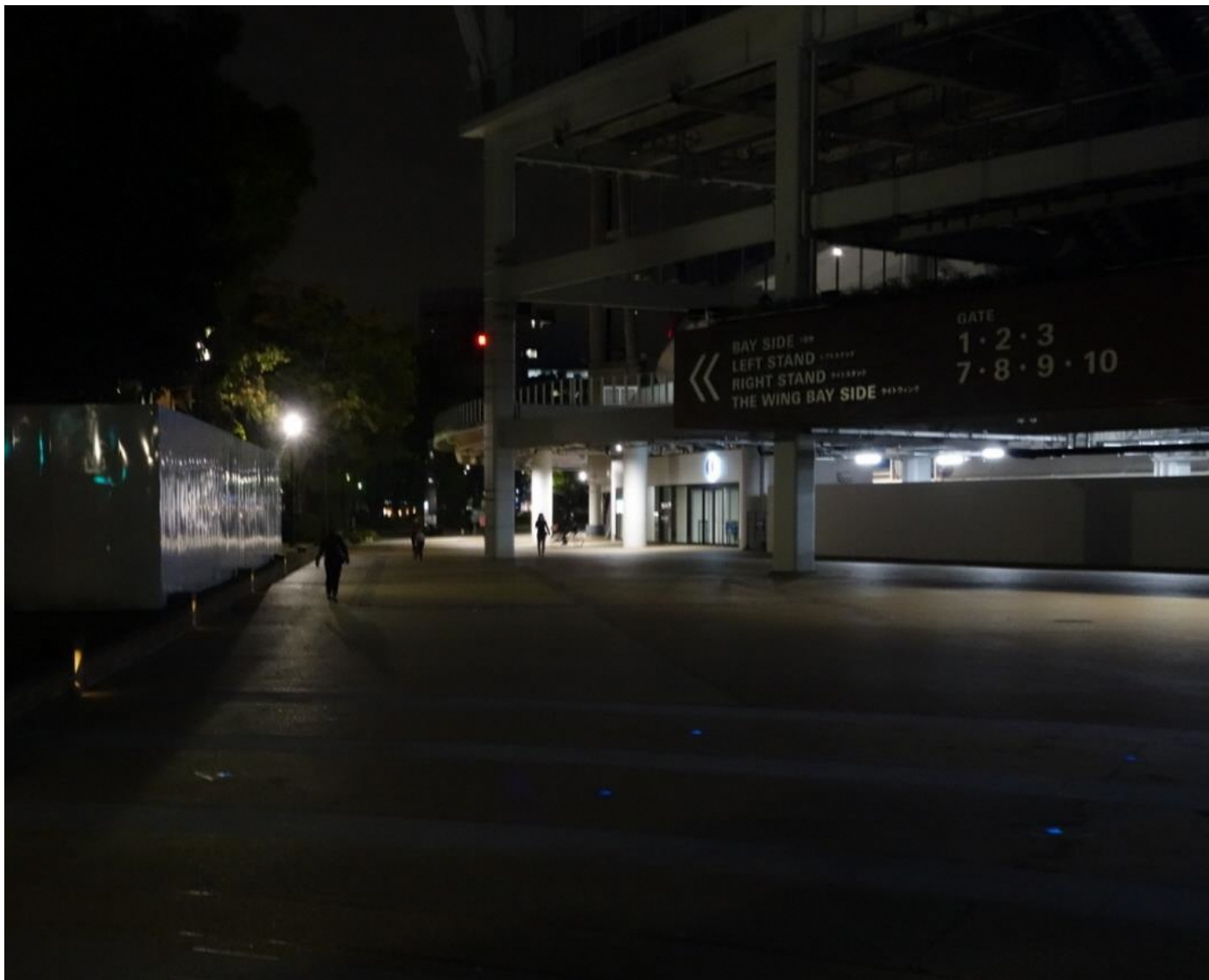
遊具周辺を除き、人影はまばら



公園端の園路は人通りもなく閑散



暗がりの中、足早に公園内を通過していく ≡ 近道



プロ野球のオフシーズンや
平日の昼や夜も
にぎわいづくりを創造し
まちの活性化に貢献したい

長時間ゆっくりくつろげそうな芝生広場(20年10月撮影)



大きな間口でシームレスにまちとつながる公園動線



園路・芝生・樹木がフラットにつながり、園内移動の自由度が高い



夜でも多くの人でにぎわう公園内店舗(20年10月撮影)



大学生や若い世代もくつろぐ芝生広場(20年10月撮影)



関内・関外エリアの これから

- ・約3,300名の学生が通うキャンパスとして2023年4月に開校予定
- ・大学の教育施設機能のほか、市民向けに開かれた教育プログラムの設置や、ホール・ブックカフェ等施設の市民開放も予定



横浜文化体育館再整備事業

- ・スポーツとエンタテインメントを通じて「人」と「まち」と「文化」をつなぐ
- ・横浜武道館(サブアリーナ)が2020年7月に開業



横浜文化体育館再整備事業

- ・メインアリーナは2024年4月供用開始予定(収容人数5,000席以上)
- ・ホテルや飲食店等の施設も同敷地に備え、集客・交流の拠点に



- ・「国際的な産学連携」「観光・集客」による賑わい創出・まちの活性化
- ・横浜公園・横浜スタジアムにも隣接(2025年下期開業予定)



関内・関外エリアの連携強化

- ・みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路再整備（2021～23年）
- ・関内・関外エリアの一体性や回遊性の向上を図る



みなとみらい

市庁舎街区再整備事業

関東学院大学
新キャンパス

横浜公園周辺

山下公園

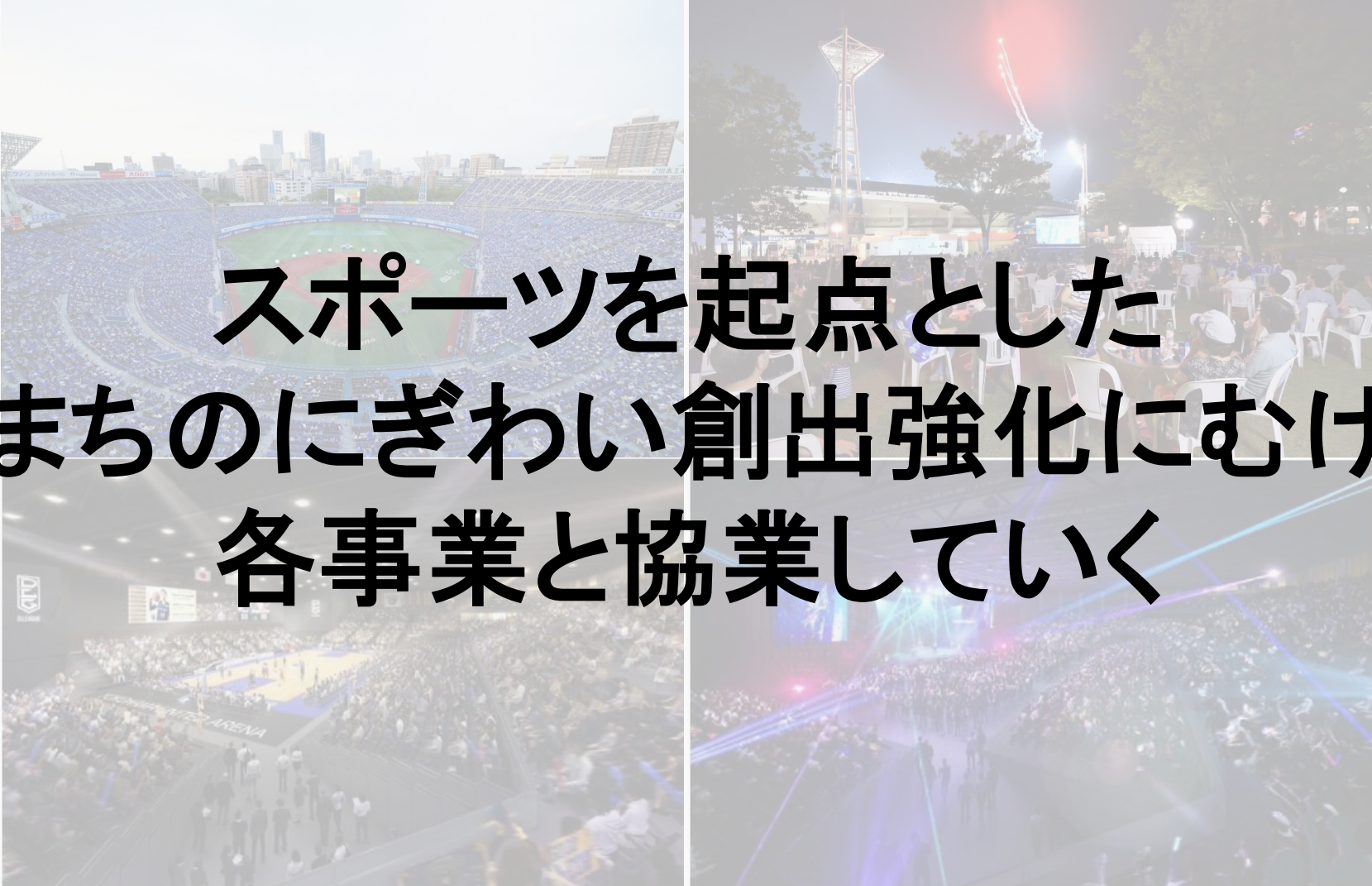
中華街

横浜スタジアム

大通り公園

横浜文化体育館
再整備事業





スポーツを起点とした
まちのにぎわい創出強化にむけ
各事業と協業していく

横浜公園・横浜スタジアムの これからに向けて

冬でも夜でも人があつまり、
にぎわう球場・公園として
周辺への回遊性、賑わいの波及
効果を創出するエンジンの
ひとつになりたい

公園滞留時間を延ばしたい
それには感覚的要素も重要？

たとえば：芝生

新宿・池袋の公園 → ふかふか

横浜公園 → ゴム感

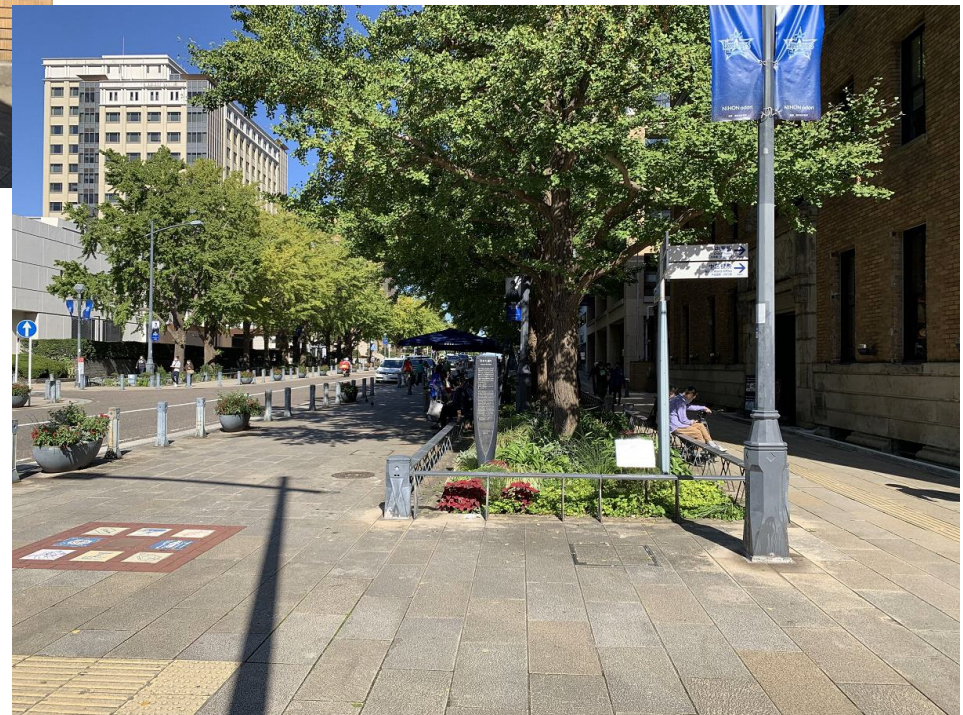
考える際に重要なこと

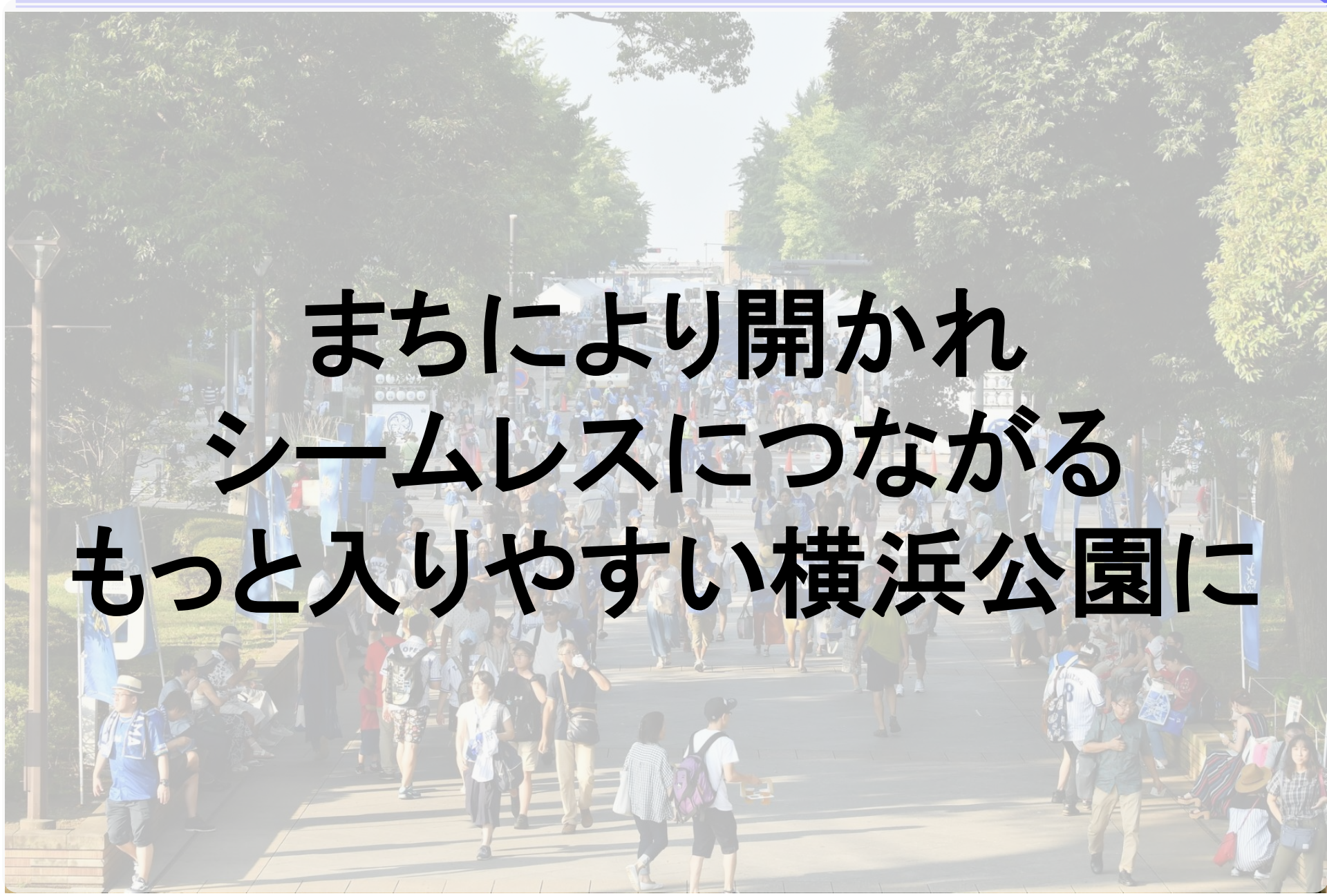
地域のひとにも、
域外からくるひとにも、
横浜公園の存在メリットを
感じてもらえること



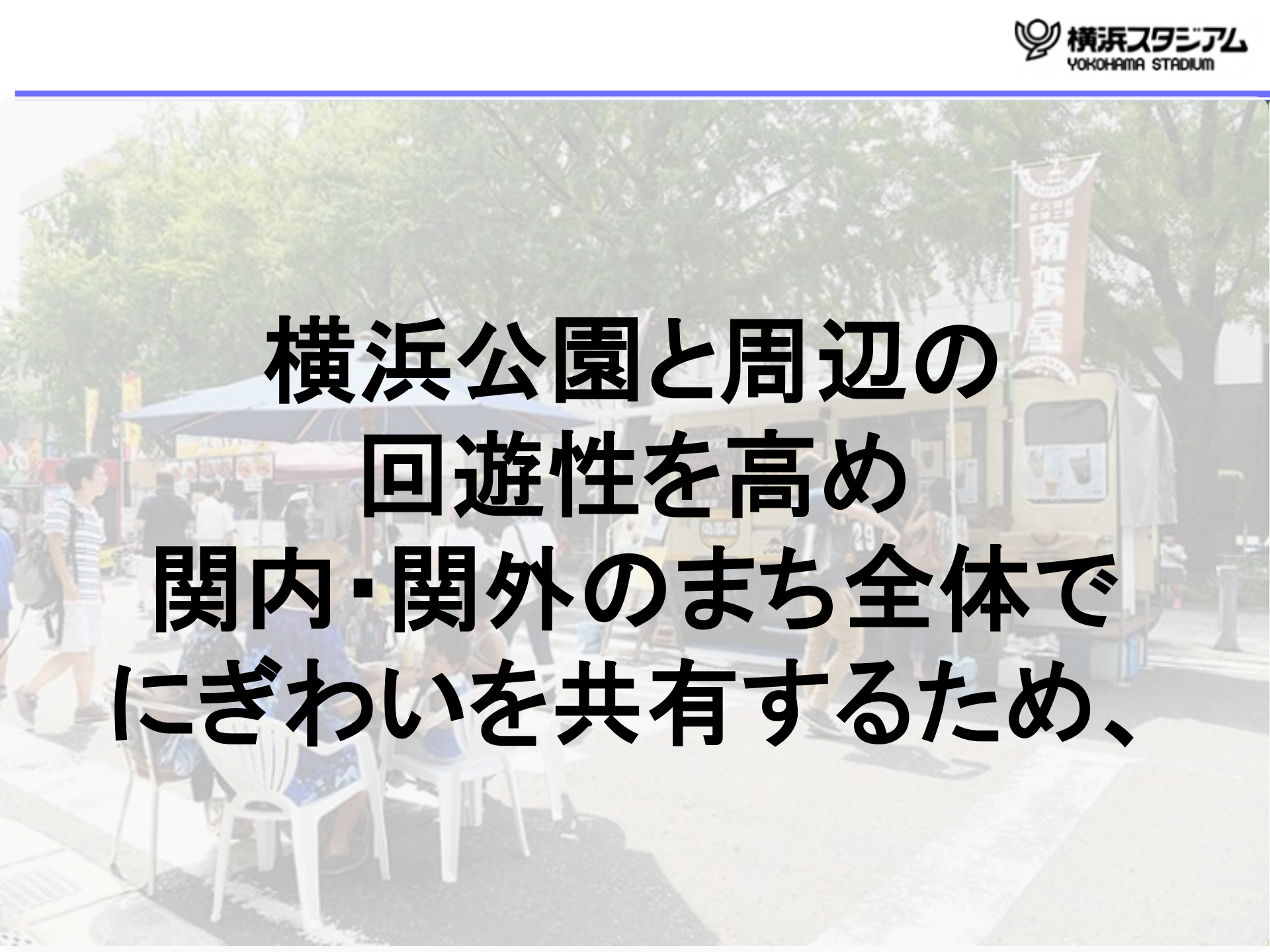
ゆったりとした空間を持つ日本大通り

公園の植栽帯が、歩道と公園を分断





まちにより開かれ
シームレスにつながる
もっと入りやすい横浜公園に



**横浜公園と周辺の
回遊性を高め
関内・関外のまち全体で
にぎわいを共有するため、**

みなとみらい

市庁舎街区再整備事業

山下公園

横浜公園周辺

彩り豊かな暮らしをもたらす 公共資産の新たな活用方法 を考えるタイミングがきた

関東学院大学
新キャンパス

中華街

横浜スタジアム

大通り公園

横浜文化体育館
再整備事業

I ☆ YOKOHAMA





ご清聴ありがとうございました